

令和3年度 胆振教育研究所 今年度の研究について

胆振教育研究所では様々な事業を行っています。今回は「理論研究」の今年度の研究内容について紹介します。

理論研究

1 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの 実現に向けた授業づくり(1年次)

2 主題設定の理由

教育改革の動向より

Society5.0時代が到来し、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識することが求められています。また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

これらの資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性」の3つの柱に整理し、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子どもたちが「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要です。

私たち教員は、このことを踏まえて、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを推進することが求められます。

研究所の研究から

令和2年度の本教育研究所の理論研究「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」から、次のようなことがわかりました。

- 胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに向けた取組ができた。
- 単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- 今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても子どもたちの多様な興味を引き出し、学びを提供できるように、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

3 研究内容

- 学習指導要領の方向性
- 個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
- ICTの活用に関する基本的な考え方

教育理論に関する
研究の紀要として発行
(2月末予定)

令和3年度

研究委託校・実践校

今年度、胆振教育研究所と共同で研究を進めていただく、研究委託校と実践校が決まりましたので、その研究の概要をお知らせします。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、公開研究会を実施しない学校もありますが、先生方の研修の機会として研究会に多くの方が参加していただけると幸いです。



研究委託校一覧

豊浦町立豊浦中学校

■校長 毛利 憲二
■研究員 木下 友博

10月29日(金)

主体的・対話的な学びを通して自らを振り返ることができる生徒の育成

～各教科における新たな課題意識を持たせる工夫を通して～

研究領域：各教科

洞爺湖町立虻田中学校

■校長 瀧澤 義守
■研究員 鈴木 正規

10月29日(金)

生き生きと学ぶ生徒の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

研究領域：各教科

壮瞥町立壮瞥小学校

■校長 柴田 暦章
■研究員 花田 教子

10月27日(水)

生き生きと学ぶ子を育成する学習指導の工夫

～算数科の授業改善を通して～

研究領域：算数科

白老町立白老中学校

■校長 小林 俊文
■研究員 池淵賢太郎

11月26日(金)

学ぶ姿勢を身につけ、確かな学力の定着を目指す授業の充実

研究領域：各教科

安平町立遠浅小学校

■校長 吉成 透
■研究員 中村 一浩

11月19日(金)

深い学びを実現するための指導法とその活用を目指して

～少人数でも主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の工夫～

研究領域：各教科

厚真町立上厚真小学校

■校長 圓山 芳史
■研究員 阿部 巧

7月2日(金)

**自分の考えをもち、主体的・協働的に学ぶ
子どもの育成**

～道徳科と教科等のつながりを意識した授業づくり～

研究領域：道徳科・特別活動・自立活動

むかわ町立穂別小学校

■校長 中嶋 清人
■研究員 佐々木裕美

11月2日(火)

**自ら考え、進んで学び合うことのできる
子どもの育成**

～言語能力を高める活動が充実した国語科の学習を通して～

研究領域：国語科

登別市立若草小学校

■校長 大熊 龍也
■研究員 山岸 大介

1月28日(金)

**主体的・対話的で深い学びの実現に
向けた授業づくり**

～主体的・対話的で深い学びを実現する手立ての共有～

研究領域：国語科

伊達市立長和小学校

■校長 阿部 聖司
■研究員 尾谷 裕治

11月19日(金)

**考える楽しさ、わかる楽しさを実感できる
授業を目指して**

～5つの学習過程を踏まえた日常授業の改善～

研究領域：算数科



研究 実践校 一覧

白老町立萩野小学校

■校長 田村 雅嘉
■研究員 高島 綾子

今年度公開予定なし

自分の考えをもち、課題を解決する力の育成

～算数科等における日常授業の充実を通して～

研究領域：算数科

伊達市立有珠小学校

■校長 柳澤 君彦
■研究員 栗飯原宣志

11月19日(金)

「確かな学力」を身に付ける子の育成

～基礎的・基本的内容の定着を目指した算数科の授業づくりを通して～

研究領域：算数科

5分間ミニ研修

ICTの効果的な活用について

今年度より本格実施されたGIGAスクール構想。児童生徒1人に1台の端末が配備され、その活用を求められています。ICT機器はどのように活用していけばよいのでしょうか。令和2年9月に文部科学省がそれぞれの教科での活用について示したことを、国語科を例に確認してみましょう。

参照：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

新学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校を通じて、国語科におけるICT活用について以下のように規定している。なお、ICT活用はあくまで手段であり、活用に当たっては、育成を目指す資質・能力との関連を明確にすることが重要である。

(小学校の例) ※中・高の規定も小と同様

第3指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次のとおり取り扱うこと。

(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

参照：小学校学習指導要領（平成29年告示）第2章 第1節 国語

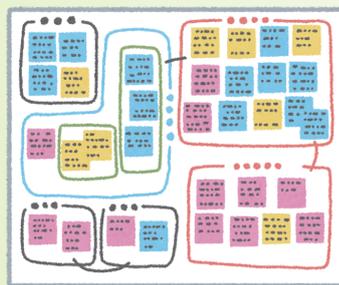
場面に応じた国語科におけるICT活用のイメージ

情報を収集して整理する場面で



- ① インターネットを活用して、情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理する。
- ② 収集した情報を、表計算ソフトなどを活用してデータベース化する。

自分の考えを深める場面で



- ① 考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的に合わせて分類する。
- ② スライドを並べ替えるなどして、情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。
- ③ デジタル教科書上で、自分が重要だと考えた箇所に線を引き、友達と比較する。

考えたことを表現・共有する場面で



- ① カメラ付き端末を活用し、スピーチや話し合いの様子を録画・再生して自分の話し方を確認したり、助言し合ったりする。
- ② プレゼンテーションソフトを活用して、発表資料を作成する。

学習の見通しをもったり、学習内容を蓄積したりする場面で



- ① モデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。
- ② 学習した内容を、個人のフォルダに蓄積する。

このように、学習指導要領においても、各教科で情報通信ネットワークの有効的な活用をしていかなければいけないと示されています。

胆振教育研究所では、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて研究しています。ホームページにも掲載予定ですので、授業改善の参考にしていただければと思います。

■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ<http://www.iburi-education.jp>
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館 カント・レラ2階

■発行者 立花和実

■印刷所 (有)デザインワーク・エーヂ 登別市幌別町6-20-34 TEL 0143-88-1890・FAX 0143-85-1890
E-mail work.d@bridge.ocn.ne.jp

所報

いぶり